

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1196200057		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム鶴ヶ島		
所在地	埼玉県鶴ヶ島市上広谷652-2		
自己評価作成日	令和 6年 2月 20日	評価結果市町村受理日	令和 6年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 6年 3月 6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が自宅と同じように意のままに生活が送れるよう最大限の支援をしている。主治医や訪問看護師、訪問歯科と連携し、可能な限り健康的な生活が継続できるような支援に努めている。  
 残存機能を維持しその人らしい生活が送れるよう、レクリエーションや歩行運動などには力を入れて取り組んでいる。  
 食事は衛生管理に気を付けながら湯煎タイプの物を使用し、栄養面、季節感も重視し提供している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

これまでの生活を大切に考え支援している。新聞購読の継続や好みの飲み物の愛飲継続、毎月家族から届く塗り絵帳を続けている人もいる。情報端末機を活用し、利用者の出身地、お国言葉、思い出の場所など個別に視聴してもらい想起を促している。フロアにあるピアノを伴奏し利用者の歌声が響くこともしばしばある。エプロンと三角巾をして調理を手伝う人もいる。お酒の好きな人には、ノンアルコールビールで対応した。家族との時間も大切に考え、墓参りやドライブ等の外出支援をしたり、居室でおせち料理をひろげミニ新年会をおこなった人もいる。行政や市内の介護事業所とも連携している。複数の介護事業所で共同開催したりリモートでのカラオケ大会に参加し、表彰を受けている。また、市役所ロビーで開かれる作品展には、利用者が制作した貼り絵を出展し好評を得た。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を読み上げ、その意義の理解をするよう努めている。	理念はフロアに掲示され常に意識している。会議で理念の見直しが議題にあがったが継続を決めた。表現の難しい人にも少ないワードや表情から気持ちを察し支援をしている。自然に笑顔がこぼれる環境を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流のため、地域で開催される行事の情報収集に努めている。自治会に加入し自治会を通して広報の配布だったり回覧板のやり取り、地域一斉清掃等に入居者と一緒に参加し近隣への挨拶を行っている。	自治会に加入し回覧板が回ってきたり、班長の来訪がある。地域一斉清掃の時は、利用者と共に参加した。ボランティアによるオカリナコンサートでは楽しいひと時を過ごした。看護学生の受入れを再開予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との交流の機会も徐々に増えてきており地域の方々に認知症の人に接する機会を作るための努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を再開するようになり、市役所職員、民生委員、地域包括、家族代表を交えて意見交換を行っている。	2ヶ月毎に家族代表、民生委員、市担当者、地域包括職員の参加のもと対面での会議を再開した。活動報告や入居状況、BCPIについても話し合われている。買い物や受診困難者等の地域課題についても検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所高齢介護課、生活保護ケースワーカーとの連絡を頻回に取っている。	報告書や更新申請、空き情報等関係部署と連携をとっている。市内事業所との部会が3か月毎に開催され市役所担当も参加し顔見知りの関係である。研修や災害の注意喚起等の連絡メールがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを基本に、職員間の連携による見守りで安全確保を図りながらケアを実践している。3ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開催し、継続して身体拘束ゼロを目指している。	3か月毎に委員会を開催し話し合われている。職員が輪番で資料作成し事例検討している。自事業所ではどうかと見つめなおしている。欠席者には、議事録を回覧し共有している。不適切ケアについての職員アンケートを実施し現状把握をおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同カンファ、フロアカンファの際に虐待にあたる行為がないか確認している。言葉使いや呼び方で入居者の尊厳を損なうことがないように注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が正当に社会的資本を活用出来るよう、権利擁護に関する制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には時間をかけてゆっくりと入居者及びその家族が契約内容を理解・納得できるような説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の見直し時期や面会の際にご家族からの意見聴取を行い、いただいた意見や要望などを検討し結果を伝えと共に、運営に反映させている。	面会や電話の際意見を聴いている。意見要望の言い易い雰囲気作りに務めている。本部にも相談ダイヤルがある。意見を幅広くくためにも家族会の再開を検討している。意見要望は、申し送りノートで共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同カンファやフロアカンファ時に意見や提案を汲み上げている。1階事務所をオープンにし、職員が気軽に相談できる環境作りを行っている。年に数回、個人面談も行っている。	会議等以外でも普段から意見を聴くようにしている。管理者は、相談し易い雰囲気づくりを心掛けている。業務の見直し、希望休、備品の購入等意見を聴いている。行事、イベントは職員が企画運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績や業務内容を評価しながら、給与等の待遇面に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の仕事に従事している年数を考慮し、各種研修や資格の取得を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGH,小規模多機能等で構成されている部会を通して意見交換を行っている。また、会議には社協や市役所職員も参加しており、多方面での情報交換が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からは不安や要望、希望について聞くようにし、入居を希望される本人には出来るだけ入居前に見学に来て頂き、雰囲気を感じ取って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等には可能な限り対応している。料金面や緊急時の対応、起こりうる事故の危険性については、誤解が生じないように詳細な説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスが受けられるよう、各サービスの特徴について正しく説明が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	軽作業を通じ家事に参加して頂き、生活に一体感が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を解除し、面会に来た際に一緒に外出出来るよう支援したり、なるべく関係性が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の方から電話を受け、橋渡しをしたり、家族との面会は、居室で行えるようにしたりしている。日々の会話の中で、入居者の若い時の趣味・仕事など、馴染みのことについて傾聴したり、話題にしたりしている。	手紙や電話の取次ぎをしている。年賀状作成を支援し投函している。生まれ故郷の地図や写真、お国言葉を情報端末機にて視聴してもらい想起を促している。新聞購読や好みのジュースの愛飲を継続している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、リビングでのテーブル配置や席順の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してしまった場合でも、可能な限りフォローを行っている。医療的ケアが必要になり転院された方のご家族も時折、転院先での様子の写真等を送付して頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方について日常会話で確認したり、個人ケースファイルを見返す等で確認している。家族の面会時、家族との会話の中で確認出来る事をピックアップし把握に努めている。	生活歴や家族情報、普段の会話から把握している。個人ファイルを読み返し、職員の思い込みにならないようにしている。発語が少ない人でもワードを聞き取り、家族に確認するなどして思いを判別している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的に面会に来られる家族には在宅で生活していた時の様子や思い出話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書の振り返り、1日2回のバイタル測定、発言内容や行動、食事や排泄・入浴の様子を職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族の要望と居室担当職員のアセスメントを中心に月一回のカンファレンスにて話し合い、より良い介護計画が作成出来るよう努めている。	3か月毎に居室担当者と計画作成担当者が中心に見直ししている。毎月のカンファレンスで状況確認し、必要があれば修正している。歩行が目標の場合には、立位保持、手引き歩行、歩行器使用など段階をふみ支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な変化を経過観察記録に残し、職員間で情報共有している。SOAP方式で記録するよう心掛けて介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員ひとり一人の経験を活かして柔軟な工夫した取り組みを行っている。職員同士がその都度話し合える環境作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や民生委員、地域包括支援センター等を職員全員が把握出来るよう情報共有に努めている。2ヶ月に1回の運営推進会議において意見交換し、協働できる関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を中心に、急変時の希望医療機関等も把握した上で適切な医療を受けられるよう支援している。必要時、往診医から専門外来受診の為に診療情報提供書を発行してもらっている。	訪問診療は月2回、訪問看護は週1回ある。かかりつけ医、専門医とは情報提供等の連携がある。提携医とは24時間体制である。医師からは、靴や歩行器の使い方等の助言もある。薬剤師訪問にて薬の管理をおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護では経過観察を伝え、必要な医療処置を受けている。看護師の意見や見解を往診医に伝え、適切な医療診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には介護・看護サマリーの情報提供の授受を行っている。病状説明会には管理者またはCMが家族と共に出席し病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った段階で家族と話し合うことは実施できているが、本人の意思確認が出来ない早い段階でのACPの取り組みが不完全である。	入居時に指針に基づき説明している。その後の意向変更にも柔軟に対応している。終末期は、家族、医師、事業所で面談を行い方向性を決めている。定期的に看取りの研修をしており、今年度も看取りを経験した。条件が整えば今後も看取りを行う予定である。	これまでも終末期の利用者に対応してきた。普段から重度化、終末期に対する意向を確認し、事業所が「終の棲家」としての環境を整えることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時に備えて救急対応訓練の実施を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに沿って定期的な訓練を行い、実践力が身に付くよう努めている。月一回のコンセント付近のホコリ取り点検を行っている。	年2回避難訓練を実施している。消防署の立ち合いをうけてアドバイスを受けてる。コンセント周りの埃に注意するよう言われた。地域避難所である公民館までは、散歩として行っている。備蓄品は、定期的に見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の状況に応じて入居者の気持ちを考慮して、安心されるような声掛けを行っている。	年1回研修している。PC、情報端末機はID／パスワードで管理されている。常時使用するノートは、離席時引き出しに収納している。口頭での申し送りやオムツ、パッド類は、インシヤルを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望されることを聞き取り、可能な限り支援している。実現が難しい場合は丁寧に事情を説明して理解を求めているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員目線で考えて声掛けせず、入居者目線での生活のペースを尊重するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の好みの衣服や色などをお聞きし、おしゃれになるように工夫している。入浴後、朝の整容で鏡の前で身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合うおやつ、または飲み物の要望を聞き取り、提供している。	季節や行事に合わせてメニューが提供されている。エプロン、三角巾を身に着け、手伝う人もいる。抹茶と和菓子でお茶会を開いたり、おやつ作りでは、ホットケーキを焼いて、自身でデコレーションなどして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取記録を残して状況を把握している。摂取量不足の場合、無理強いせず、時間をずらしながら摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けと介助を実施している。拒否が見られた場合は少し時間をおいて対応を図っている。入居者個々にあった口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄時間を把握し、様子観察、定時での声掛け誘導を行っている。その日、その時に応じた対応を行い、自尊心を大切に支援に努めている。	パターンの把握に努め時間や動作、表情から推察し誘導している。トイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツやパッドの使用量削減に成功した。夜間は、オムツやポータブルトイレを使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部の張り具合の観察や便座に座位をとって頂き便意を感じられるようリラックス出来る声掛けで様子観察している。腹部マッサージを実施し、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方へその時の心身状況に合わせて、声掛けパターンを工夫し、不快にならないような誘導を行っている。無理強いせず、入浴方法を変え、職員同士で話し合い、清潔の保持に努めている。	週2回であるが状況に応じシャワー浴や清拭で対応している。入浴を伝えると着替えや石鹸等を準備する人もいる。入浴嫌いな人には、無理強いせず時間や曜日を変えている。柚子湯や菖蒲湯、入浴剤等を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間を把握し、寝不足の方は日中に休息を促している。安眠出来るよう、気温、本人の体調を観察し、居室、衣類等、温度調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々観察をし、いつもとは違う症状が出た場合など、報告・相談している。薬の変更等で副作用や効果など観察を行い、職員同士で周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意とすることを活かし、職員と一緒に支援しながら日々の役割やレク活動に参加して頂き、自己の尊厳に繋げていく支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が出来ていないのが現状である。歩行訓練を兼ねながらフロアや廊下を職員と共に会話を楽しみながら窓からの景色や季節を感じながら過ごしている。	天気の良い日には散歩に出かけている。近隣宅の花壇や野鳥を眺めたりしている。歩行の難しい人には庭のベンチで外気浴をおこなっている。家族と共にテーマパークや墓参りに出かける人もいる。外出時のお土産の差入れもあり、利用者とともにお茶を楽しむこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ5類移行後も外出の機会はなかなか持てず買い物等には行けていない。方針が変わり立替購入や預り金も行っていない為、金銭の所持は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月に毎年年賀状を書いて出している。ご家族からの電話を頂いた際に電話口で話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク活動を活用し、季節にあった装飾を作成し飾り付けをしている。季節を感じ取れる空間を楽しんで頂いています。	フロアでは体操や制作等が行われている。午後のひと時を利用者のピアノ伴奏で過ごすこともある。動画配信サービスを活用し往年の歌手や季節の唱歌を流し歌声が聞こえることもある。本棚の料理や折り紙の本を読んで過ごす人、掃除を手伝う人、皆それぞれの楽しみ方がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で居室で過ごしたい方には孤立しないよう定期的に訪室し、会話をすることで安心出来る居場所作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設とご家族で相談し、快適に過ごして頂けるようレンタルベッドの導入や日常生活用品も必要な物だけとし、整理整頓を定期的に行っている。	エアコン、洗面台、クローゼットは備付である。寝具は畳式ベッドや布団敷など好みのスタイルである。部屋に家族写真や若い時の写真を飾る人、居室で家族とともにおせち料理を囲みミニ新年会をひらいた人など利用者それぞれの暮らしである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が直ぐに分かるように見易く表示している。環境の変化で混乱しないように物事一つ一つを丁寧に説明し理解を得て頂いている。		